

平成29年度

第2回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 平成29年11月17日(金)午後2時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 6階 研修室A・B
3. 報告事項 (1) これまでの教育課題に対する主な取組状況について
4. 議 題 (1) 平成30年度重点的に取り組む教育施策について
(2) 子どもたちの夢・あこがれを育む具体的な方策について
5. 出席者 菊地啓夫市長、百井崇教育長、佐藤雅晴教育長職務代理者、小林修子委員、藤川チユキ委員、南館公雄委員
6. 出席補助職員
鈴木隆夫副市長、大友彰総務部長、菅井秀一市民経済部長、高橋広昭健康福祉部長、高橋伸明建設部長、佐藤修司参事兼学校教育課長、沼田輝明生涯学習課長兼スポーツ振興課長、遠藤大輔政策企画課長
7. 欠席委員 なし
8. 傍聴者 なし
9. 本会議の書記
山下真理子教育総務課総務係長
田崎恭子教育総務課主事
10. 開会 午後2時00分
11. 閉会 午後3時45分
12. 議事録署名人
佐藤雅晴教育長職務代理者
13. 事務局職員
高橋弘昭教育次長兼教育総務課長事務取扱、山下真理子教育総務課総務係長、田崎恭子教育総務課主事
14. 議事の経過
以下のとおり

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

只今より平成 29 年度第 2 回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして、菊地市長より御挨拶をいただきます。

菊地市長

本日は、お忙しいところお集まりをいただきましてありがとうございます。

今年度の総合教育会議は本日が 2 回目の開催となります。平成 27 年に地方教育行政法の一部改正法が施行され、今年で 2 年を経過しました。教育長として責任を明確にするということで 10 月から新制度がスタートしていますので、皆様の御協力をお願いします。教育長の任期が 3 年、教育委員の任期が 4 年となっておりますので、この任期の違いを活かしながら継続して議論を進めていきたいと思ひます。

今回の総合教育会議は来年度の予算と様々な教育問題について議論していきたいと思ひます。今までに教育委員の皆様からいただいた御提案につきましては、国の方に積極的に伝えて参りました。昨日、全国市長会があり、議論の中で教育に関する事項が非常に多く、市長会の決議として教育に関する環境整備が新たに加えられました。学校の建物はまもなく 40 年という節目の年を迎えます。既に 2 割から 3 割の建物が改修の時期を迎えますので、国の支援を求めるといふことが決まりました。政府にしっかりと求めていきたいと思ひます。それ以外では、貧富によって教育に差が出ていることも問題として挙げられまして、子どもたちが経済的理由に影響されることなく進学できる機会を作るべきだといふ意見が出ました。残念ながら、教育に関する国の予算は 10 年前の半分しかついていません。教育に対する予算を増やす方針で進めてもらわないと、学校の老朽化の問題、強く子どもたちを育てる支援等、必要なことが多々あるかと思ひますので、皆様から意見をいただきながら、国に伝えていきたいと思ひます。今日はそういったことも踏まえて、意見を頂戴したいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、百井教育長より御挨拶をいただきます。

百井教育長

教育委員会では様々な施策を着々と地道に取り組んできました。子どもたちについては小さなトラブルはありましたけれども、一つ一つ解決してきておりますので、平穏な日々を過ごしております。今日は各課長の方から、今までの事業の報告や次年度に向けての施策を説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

それでは協議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第4条の規定によりまして、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

菊地市長

規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、議事録署名人を決めさせていただきます。今回は、佐藤委員にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

構成員

異議なし。

菊地市長

議事録署名については、佐藤委員にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

はじめに報告事項に入らせていただきます。報告事項の説明について、事務局から説明をお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

これまでの教育課題に対する主な取組状況について、教育総務課から御報告申し上げます。

1 点目、学校施設・設備の整備等につきましては、学校の安全・安心を優先とした施設・設備の維持補修、備品の整備を進めております。金額の高いものでは、玉浦中学校屋内運動場のLED照明更新が終了しております。各学校から、29年度当初予算見積時に要望のあった優先順位の高い修繕から取りかかってはおりますが、老朽化による緊急的な

修繕に対応するため、繰り延べる修繕もありますが、地元業者にも協力をいただきながら取り組んでおります。

2点目、長寿命化計画に沿った学校施設の改修につきましては、29年度は岩沼西小学校と岩沼南小学校のトイレの洋式化工事がまもなく完了する見込みでございます。このことによって、小学校のトイレはすべて洋式化ということになります。

3点目、学校のICT環境の整備につきましては、教員の校務用パソコンを一人1台ずつの支給が完了したことに続きまして、タブレット型を小学校では担任全員と、中学校では教科指導教員全員への支給ができております。

4点目、給食調理業務等の民間委託につきましては、現在、中学校の調理業務を委託しておりますが、生徒、保護者、先生から高く評価されておりますので、玉浦小学校と岩沼西小学校の給食調理業務について民間委託を進めておりました。契約業者も決まりましたので、平成30年2月から民間委託を開始できるよう、取り組んでまいります。

教育総務課関係については、以上でございます。

佐藤参事兼学校教育課長

学校教育課から報告申し上げます。平成29年度は、夢を育み愛のある教育の実践を図るために様々な取組を掲げております。

1点目は学力向上推進事業です。夏季休業、冬季休業、放課後において「岩沼学び塾」を開催し、地域の方々や大学生の御支援をいただきながら、子どもたちに学びの場を提供していき学習習慣づくりに取り組んでいきます。

2点目は夢あこがれプロジェクトの展開です。西村まさ彦さんの朗読会を始め、仙台フィルの演奏、理科大好きフェスティバルなどを開催し、子どもたちが本物に触れる機会をたくさん提供します。この事業以外にも市当局御理解の下、多くの人材を学校現場に配置していただき、子どもの教育にきめ細やかな対応をしてまいります。

3点目は学校職員の働き方改革です。教職員の多忙化を解消するために推進委員会を立ち上げ、業務の見直し等を検討しており、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保

できるよう取り組んでおります。さらに岩沼市独自の取り組みである特色ある学校づくりの助成を活用し、特色ある学校づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

生涯学習課の事業について、主な事業のみ報告させていただきます。

1. 学習機会の充実についてですが、従来からの事業であります、のびやか教室については、4小学校において毎週1回約2時間の内容で、宿題などの学習時間、物作りや体験活動などのプログラムを、各コーディネーターが中心となり、地域のサポーターさんから協力をいただいて、工夫しながら実施しております。

また、今年度は学校教育課で主催しております放課後「学び塾」とのコラボということで、大学生等の支援員さんから子どもたちに学習支援をしていただいております。コーディネーターさんはもとより、利用者、保護者から好評をいただいております。

また、学校と地域社会との協働事業としてグリーンピア岩沼の里山を散策する、里山体験学習をグリーンピア森の散策会・いわぬま森のサポーターさんの協力をいただいて実施しております。

これらに加え、昨年度から開催しております、岩沼に愛着を持つ人材育成事業を2事業、展開しております。

1 つ目は、岩沼の食文化である、「はらこ飯」の由来と、作り方を勉強して、「はらこ飯」を味わってもらう事業を行っております。

2 つ目は、松尾芭蕉「奥の細道」いわぬま二木の松俳句大会です。今年度も、来年1月に市内小学校5・6年生、中学生を対象に募集を開始し、昨年同様の約2千点の応募を見込んでおります。作品は、市民図書館2階のギャラリースペースに展示することとしております。

2. 青少年健全育成活動では、関係者による巡回指導を東部地区・中央地区「北・南」・西部地区に分けて年30回行っております。

4. 文化財、歴史資料の調査保存、活用については、今年度補正でお認めいただいた、原遺跡の継続発掘調査を現在おこなっております。今のところ、真新しい発見は報告されておられません。

次に、スポーツ振興課の事業について申し上げます。

1. スポーツ団体活動の支援として、学校開放、生涯学習振興基金によるスポーツ活動の支援を行っております。

2. スポーツ施設の整備と活用の推進については、施設の老朽化により不具合が目立つ箇所も多数ありますので、市民が怪我をすることのないよう施設管理に注意してまいります。また、安定した市民サービスが継続して行えるよう、将来を見据えた新しい管理運営体制づくりとして、岩沼市にあった指定管理者制度の活用の検討を進めております。

以上で、ございます。

菊地市長

只今、説明がございましたが、御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

小林委員

子どもたちを手厚く支援していただいて、本当にありがとうございます。子どもたちの環境整備等にも力を入れていただいておりますが、一番は子どもたちのやる気が大事だと思いますので、「頑張ってみようかな」と引き金になるような事業を行ってほしいと思います。「夢・あこがれプロジェクト」に関しては、一流の方や、全国で活躍している方をお呼びしているようですが、さらに付け加えて、身近にいる方に憧れを持てるような事業があればいいのではないかと考えています。地域の人材を発掘し、身近にいる方がいきいきと活躍しているところを子どもたちに見せ、子ども自身の志気を高められるようなことができれば嬉しいです。

南館委員

社会は急速に情報化が進み、知識社会になっております。情報が日々更新され、必要とされるスキルも徐々に古くなると思われまます。徐々にゆとり教育から詰め込み教育に

変わりつつある傾向ですが、子どもたちが自分の力で生きていくためには知識を詰め込むだけではなく、何かを創造できるような力をつけるようになると良いと思います。生涯学習課の方で行われている放課後のびやか教室等が創造する力をつけることに繋がっていると思います。一番心配なことは人間性で、特に命を大事にできることが重要な部分だと思います。親が社会ルールを教えることも出来なくなっているように思いますので、こういった教育も学校で教えてもらうことで効果があるように思います。

藤川委員

施設の修繕が少しずつ進んでいるのはありがたいと思います。まだ大きなものが控えているので問題が残ってはいますが、少しずつ前に進めていただければと思います。

ユニーク先生活用事業や夢・あこがれプロジェクトが、長く続いて定着し、岩沼では当たり前になっていることを誇りに思います。また、学び塾も定着しつつあり、効果が出てきています。最近始まった放課後のびやか教室と学び塾のコラボのように、事業を繋げていく流れがあると、より効果が得られると思います。

佐藤教育長職務代理者

教育委員会のそれぞれの課で様々なアイデアを出して事業を行っていただいております。効果が出ていることを感じます。経済格差が教育格差にならないようにという思いが根底にあると思いますが、事務局職員がオーバーワークにならないか心配です。

昨今のテレビを見ていると、若年層の犯罪が慢性化していると思います。知育に関してはどこでも充実しているとは思いますが、倫理観を育てる教育があまり充実していないのではないかと思います。果たして人間はどう生きるべきなのか、人間的にどうあるべきかということや、正しい判断や正常な感覚というのは誰かが責任を持って教えていかなければならないのではないかと感じています。子どもたち一年間の時間を10とすれば、学校教育に関わる時間は2.5くらいで、あとは地域社会や家庭での時間だったりするわけです。価値観の多様化ということもありますが、子どもたちをどのようにして自立させるかというスキルが見えていない社会になっていると感じます。

子どもたちが安心して学校に登校できる環境を作っていただきました。例えば給食やトイレの環境を改善していただいて、関係者の皆様には本当に感謝しております。

菊地市長

教育委員さんに一通り意見を出していただきました。小林委員さんがおっしゃっていた、プロだけでなく地域の方の本物を見せてインパクトを与えるというのは大事だと思います。そういった方を見て、夢や憧れを持つようなきっかけになればいいなと思います。南館先生のおっしゃっていた、命の大切さについて学ぶ事は大事なことです。平成30年度から始まる道徳の教育に期待しています。

学校の環境整備については始まったばかりで進めていかなければならないのですが、国が教育に関心をもっと持ってくれればと思います。国は経済中心で考えるのでそれも重要ではありますが、当初予算に教育に関する予算がついておりません。補正予算ではついていますが、当初予算で少しでもいいから予算をつけてほしいという思いがあります。予算をしっかりと国の方に要求して、その予算で学校整備を充実させてほしいと思います。他にも、児童クラブも定員オーバーしているので、もう少し頑張らないといけないと思っております。

佐藤委員がおっしゃる、学校の責任と私たちの責任と社会の責任、それから地域の責任がありますが、とにかく安全に学校に通えるということが第一だと考えておきまして、そのためには地域全体で子どもたちを見守ることが大事だと思います。見守り隊のメンバーを増員し、力を入れていきたいと思っております。給食については、岩沼市はしっかりしていて、他市では美味しくないなどの情報もあります。こちらもしっかりと監視していかないといけないと思います。

話は変わりますが、現在、トイレ洋式化改修工事をしている西小学校と南小学校に関して、工事は11月で終わるのでしょうか。

高橋建設部長

市内4小学校のトイレ洋式化改修工事については今年中で終わりますし、新年度以降

の中学校トイレ改修工事についても、予算との兼ね合いもあるかと思いますが、国の方で補助金を付けていただければ私たちも一生懸命頑張ります。

菊地市長

市長会でも国に教育優先で考えてほしいと主張していきまして、少しでも予算をつけてもらわないといけないと思っております。

それでは議題に入りたいと思います。まず平成 30 年度の重点的に取り組む施策についてですが、事務局の方から説明をお願いします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

平成 30 年度、重点的に取り組む教育施策について、教育委員会全体としての基本方針でございますが、いわぬま未来構想に掲げるまちづくりの柱の 1 つである「生涯現役で心豊かな『人』づくり」の実現に向け、教育基本方針、教育等の振興に関する施策の大綱を具現化するため、学校教育環境の整備、学校教育と支援体制の向上、生涯学習環境と支援体制の向上、生涯スポーツ環境と支援体制の向上に着目して各種施策に取り組んでまいります。

はじめに教育総務課でございますが、1 点目、28 年度にとりまとめました学校施設長寿命化計画に沿って、計画的に維持補修を実施してまいります。建築後 40 年を超えました岩沼西小学校屋内運動場の整備を進めるため、劣化調査を行って修繕方法をまとめたいと考えております。

2 点目、小学校給食調理等業務のアウトソーシングにつきましては、30 年 2 月から玉浦小学校と岩沼西小学校がアウトソーシングを開始できる見込みとなりました。引き続き、岩沼小学校と岩沼南小学校にあつては、31 年 2 月から学校給食調理業務のアウトソーシングができるように準備を進めてまいります。

3 点目、学校市職員の配置につきましては、学校給食調理業務のアウトソーシングに伴って、業務員と学校図書館勤務職員について、必要な人員を適正に配置できればと考えております。

4点目、中学校のトイレ洋式化につきましては、30年度に岩沼北中学校と岩沼西中学校のトイレ洋式化を国庫補助事業で工事ができるように、29年6月に補助金の申請を行っておりますが、いまだに補助金交付の内示通知がございません。つきましては、補助金の動きがあれば直ぐに対応できるよう準備を進めてまいります。

5点目、気温、湿度ともに高い日が増えていることから、校長室、職員室にエアコンを設置し、職場環境の改善を図るため必要な予算をお願いしてまいります。

以上の点に配慮しながら、学校教育環境の整備に取り組んでまいりたいと考えております。

佐藤参事兼学校教育課長

学校教育課からは3点あります。1点目と2点目に関しては毎年行っているため説明を省略させていただきます。3点目につきましては教育環境整備ということでお話ししたいと思います。学校の実情として様々な課題があります。それに向き合うために、小学校の指導助手、特別支援指導助手、特別支援員の増員配置を来年度お願いしたいと思っております。また、新たに業務員アシスタントの配置をお願いしたいと思っております。教職員の多忙化解消を図り、子どもたちと職員の向き合う時間を確保できるよう取り組んでまいります。それから、来年度より小学校で英語教育が先行実施となります。そこで、小学校英語教育の充実を図るために、ALTの増員配置をお願いしたいと思っております。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

この資料に生涯学習課の来年度の主な事業を掲載しております。その中で、先程の報告と重複しますが、主な点のみ申し上げます。

まず、1点目の協働教育の推進では、学校と地域との協働教育として開催しております「放課後のびやか教室」ですが、子どもたちの放課後の居場所づくりという点で、大切な事業と捉えておりますので、継続して開催したいと考えております。また、岩沼に愛着を持つ人材育成事業として、松尾芭蕉「奥の細道」いわぬま二木の松俳句大会を継続して開催できるよう必要な予算を計上しているほか、子どもたちの移動手段を確保す

ることで、学習機会を増やすためのバス運行の委託経費等の予算措置をお願いいたします。

3 点目の埋蔵文化財包蔵地の適切な保存と調査の実施についてですが、この事業が進行しないと、圃場整備や公共事業が予定どおり進まないという問題が発生します。ぜひとも、文化財行政の調査・事務体制を維持するため、現在の人員配置の継続をお願いいたします。また、原遺跡の発掘調査ですが、今年度補正でお認めいただいて現在調査中ですが、原遺跡がどの程度、どの方向に広がっているのか把握するため、来年度においても継続して調査ができるように予算計上させていただきました。

次に、スポーツ振興課です。

1 点目の指定管理者制度の導入準備につきましては、これまで行ってきた事業の業務手順書を整理すること、指定管理料の設定、指定管理者募集の要項、関係条例の整理、契約時の業務仕様書など事務作業を進めております。

2 点目の陸上競技場の改修についてですが、開設から 28 年目になる陸上競技場の全面改修を、スポーツ振興くじ助成金を活用し、来年度に取り組めるように予算計上させていただきました。工事期間に約 5 ヶ月（平成 30 年 7 月～11 月）を要することから、今後、小中学校や、体育協会加盟団体等に、来年度の早期仮予約を募集する段階で、改修スケジュールを提示し、大会等の時期や会場を変更してもらうなどの措置が必要になりますので、早めに情報発信ができるように取り組んでまいりたいと考えております。

以上、平成 30 年度重点的に取り組む教育施策と課題を説明させていただきました。

どうぞ、よろしくをお願いいたします。

菊地市長

只今、事務局の方からお話がありましたが、それぞれ平成 30 年度に重点的に取り組む事業を資料にまとめております。これについて質問等あれば頂戴したいと思います。

小林委員

学校へ様々な支援をいただいておりますが、特に人材の支援が本当にありがたいと感

じています。私が学校にいた時も指導助手の先生にいらしていただき、そのおかげで先生方も心にゆとりが生まれ、子どもと接する時間が増え、子どもたちとのコミュニケーションに役立っていたため、学校に対する人材の支援はぜひお願いしたいと思いました。今度は英語教育が始まるということで、それに伴い研修会を開いているという報告を受けましたが、先生方が子どもたちに対して希望を持って接していますので、それを支援していただくように、英語を指導する先生方をなるべく多く学校に配置できると良いと思います。そして子どもたちが楽しく英語に入っていけるような環境作りを進めていただければと思います。学校教育課で挙げている人材の支援に関してはぜひお願いします。

佐藤参事兼学校教育課長

英語教育の先行実施として、来年度から15時間確保するということになっています。今はALTが3名在籍しておりますが、3名中2名は中学校、1名が市内4小学校を回っています。来年度、このままでは1名のALTが5,6年生の約60時間受け持たなくてはならず、さらに3・4年生も見えていただくということになりますので、1名で市内4小学校を受け持つのは難しいと思います。そこでALTの増員を考えておりました。現在は、小学校の先生方を対象に、ALTを講師にして英語の研修を行っているところです。

小林委員

岩沼小学校と岩沼中学校の英語の授業を拝見させていただきましたが、特に岩沼小学校の授業が楽しそうな様子で、ALTが活きていると思いました。私たちが拝見した授業を、より多くの学校で体験してもらうためには、1名の先生では足りないと感じました。

菊地市長

今は塾でも英語を教えていると聞きますので、学校の方が遅れているように感じます。

小林委員

英語を覚えることが重要ではなくて、英語という言語が子どもたちの耳に馴染めばいいのではないかと思います。

南館委員

教職員が鬱になる確率は、一般企業の2.5倍になるそうです。学級崩壊や発達障害のお子さんが増えてきているということもあるため、小中学校に対して特別支援指導助手等の配置は何とか実現して、先生方の負担を軽くしていただければと思います。

教職員の人間性に関するデータによると、9割は誠実な教師で、残りの1割は問題がある教師ということだそうなので、岩沼市ではしっかりと人材を見て、子どもたちが良い先生にめぐり合えるようにできればと思います。隠れたところで問題を起こしている可能性もありますので、常に注意して、きちんと子どもたちを教えられる先生を見つけていただければと思います。

菊地市長

働き方改革によると、サラリーマンを中心に様々な取り組みを行っておりますが、先生方の時間の確保は難しく、解決するには増員しか手段がないのではないかとよく言われております。例えば一学年に1人でも全体を見る人がいれば状況は変わってくると思います。なるべく先生方が子どもたちと向き合う時間を増やすことができるような取り組みをしなければならぬと思います。

藤川委員

人員配置は本当にありがたく思っています。今、その人材配置がないと学校が立ち行かなくなっていることが現実です。しかし、問題解決を学校現場だけに頼って人員を配置すればいいのかというと、返って学校の負担が増えるのではないかと感じております。私が最近思うのは、学校や家庭で抱える問題を当事者と親、学校、市役所など内部だけで話を終わらせていいものかということです。発達障害等は健診などで兆候が見えてきますし、どの家庭でもありうることでありますが、発達障害の知識は一般的にはまだまだ不足しています。より多くの人に知ってもらうよう努力する必要があると思います。

先程の小林委員さんのお話にも私も同意見です。必ずしも全員が有名な人を追いかけるのではなくて、身近な大人に対しても憧れを持つと思います。生き生きとした身近な大人の姿が見られるような機会をもっと増やしてもいいのではないかと思います。

百井教育長

問題がある場合には、教育委員会内だけではなく、市役所の他の部署や、場合によっては警察と情報を取り合っています。学校と地域の繋がりも考えていきたいと思います。

また、身近な人に注目することについても、もっと掘り下げていきたいと思います。

菊地市長

身近な人が生き生きとしている姿を子どもたちに見せるのは大事だと思います。副市長はどう思いますか。

鈴木副市長

学校教育で一番大切なことは人員の配置等、環境を整えることだと思いますが、子ども一人一人の生活習慣に踏み込んでいくことも大きくなっていると思います。学校だけで教育できるものではないという話と繋がるのですが、基本的に子育ては親がするものであってほしいです。親に期待できない部分を市役所に頼ってくるということもあると思いますが、教育環境だけを整えても、子どもの心に直接問いかけるということは学校のカリキュラム上では難しいところです。そこで社会全体の取り組みが課題になるわけですが、答えを見つけるのは難しいと感じています。

菊地市長

社会全体の取り組みが課題ではありますが、まずは先生に心の余裕がないと、子どもの心に働きかけるようなことは難しいと思います。

佐藤教育長職務代理者

平成 30 年度の予算に関しては教育委員会事務局の方で精査していただいていると思います。今、お話いただいたことについて大きくまとめると、1 点目は教育施設の充実ということだと思います。子どもたちが安全で楽しく教育を受けられる環境を整備するために、市長さんも教育優先のまちづくりをしていただいていると思いますが、ハード面はその時代に合わせながら整備していかなければならないのではないかと思います。

それから 2 点目は教育内容の充実も大切なのではないかと思います。オイルショック

以降、学校と社会は連携しながら子どもたちを育てなければならないということで、学校外教育に力を入れ、国でも予算を使って特化していました。今から 40 年程前には、お父さんお母さん頑張ってくださいという内容のパンフレットを小学校 4 年生の全ての親に渡し、中央青少年団体の人たちが各地域の人と交流しながら、学校外教育を充実させる活動をしていました。それがオイルショック以降立ち行かなくなり、今では社会教育団体に子どもたちの加入する割合がとても低くなっているそうです。親は子どもを育てるためにどういったことをしなければいけないのかという働きかけをどこかでしなければならぬと思いますし、学校外教育を介して地域社会を作っていくことをしていかなければならないと思います。

3 点目は教職員が十分に準備して授業に取り組めるような環境を作らなければならないということです。子どもたちは大人の姿を見て育っていくのだと思いますが、先生方がこれだけ忙しいと、子どもたちと接しながら、手本として自分の姿を見せる余裕があるのかという疑問などがあります。教育機器の整備と、教育の内容を教職員が準備できる時間を十分に確保しなければなりません。その時間を確保するために教育委員会ができることをしなければならぬと思います。

4 点目は平成 30 年度の小学校の英語教育の先行実施についてです。今世間では、英語塾に対する保護者の意欲が高いそうです。英語の授業が始まる時に既に学習している子どもたちと、経済的な理由などで機会に恵まれない子どもたちが同じ学年になった場合、今まで英語に触れたことがない子どもたちは、教育に対する意欲すらなくなってしまうことが懸念されます。義務教育の中でその溝を埋めるためには、ALT の活用しかないと思います。ALT を各学校に 1 人ずつ配置し、英語をスタートしたときに子どもたちにあまり格差が出ないよう教育をするため、各学校でプログラムを立て、子どもたちを支えていかなければならないと思います。

菊地市長

都会の子どもたちの方が、英語にすんなりと入ることができるという話を聞きました。

これは環境の違いだと思います。

佐藤教育長職務代理者

いかに人に慣れているかだと思います。ALT のようにネイティブが学校にいと学校教育の決まった時間外もコミュニケーションがとれるというメリットがあります。週 30 時間は学校にいるようになればいいのではないかと思います。個人的には、一定の基準を満たしていれば、ボランティアのような教育をお手伝いできる人でもいいと思います。

菊地市長

岩沼市に帰国子女の方がいますので、このような人たちが ALT になってくれればいいのかと思います。

大友総務部長

普段から英語はとても大事だと思います。オリンピックも近づいてきておりますし、今後英語を使う機会は増えてくると思います。

菊地市長

ALT を増やしていきたいという気持ちはあります。岩沼の教育や取り組みが他の市に住んでいる人たちの目に留まる特色になればいいのだと思います。私は子どもたちの数が減っていることを一番心配しています。出生数は増えていますが、転出者数がそれより多い状況ですので、岩沼市に転入していただいて人口を増やしていければと考えております。いずれ教員の職場環境を良くしてあげるということは必要です。時間的にも心にもゆとりを持ってもらって、子どもたちと向き合ってもらえればと思います。

菅井市民経済部長

話は変わりますが、今、市民バスの運行見直しをしております。車内では、子どもが高齢者に席を譲るといったこともあるそうです。今後、子どもがバスに乗る機会が増えると思います。大人と子どもが一つのバスに一緒に乗るといったことは、視点を変えればこれも教育だと思います。

菊地市長

今回、市民バスの運行見直しということで、路線を市街地循環型にし、子どもから高齢者まで勝手良く乗れるようにしたいと思います。また、志賀、玉崎、矢野目はデマンド方式になります。予約制で自宅に迎えに行き、できるだけ近くまで送迎するものです。概ね固まりつつありますので、今後は市民の方々に説明を行いたいと思います。

陸上競技場について、改修はどのようになっていますか。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

建物の方は平成 18 年頃に観客席の改修を行いました。ダメージがひどくなってきております。それに加えて震災以降客席の一部がずれてきているので、見積り、調査をお願いしているところです。今回の改修は、トラックとその周辺部分、真ん中のフィールド部分の全面改修を考えております。昨日 toto の助成金の 30 年度申請関係の説明会に参加してきましたが、ここ数年 toto の申請が増えてきているそうです。以前は申請が少なかったため 100 パーセント補助金をいただくことができましたが、各自治体で施設の改修をするところが増えてきているそうなので、まんべんなく助成金を振り分けるために、ほとんどの自治体が申請額の 80 パーセントの補助金になっているという話でした。

菊地市長

申請した金額の満額にはならないようですが、積極的に補助金を申請して、差額は 30 年度予算の中に組んでいこうと思っております。陸上競技場は、市外の利用者も多いですし、使い方を考えていかなければならないと思います。あるものをしっかり使って、直すべきところは直すという姿勢を見せていくべきだと思いますし、傷みがひどいので改修はなるべく早くと思っておりましたが、平成 30 年度は一步踏み込んで動いてみたいと思います。また、オリンピックに関係して岩沼市でも何かできないだろうかという思いで動いておりますので、形になりましたらお知らせいたします。

高橋健康福祉部長

藤川委員さんから乳幼児健診や三歳児健診で発達障害等の傾向が見えてくるという

お話をいただきましたが、実際には早くから見つけることは難しく、お子さんによっては就学時健診や小学校に入ってからそういった状況が見えてくる場合もあります。対応が難しいところもありますが、乳幼児健診である程度見つかったケースに関しましては、先生方と協力しながらできるだけ必要な支援をしたいと考えており、様々な形で情報を共有しています。保健師だけでは難しいところもありますので、先生方や保育士の協力を得ながら、その子の成長にとってどの方法が最善なのかを考え、支援を進めているところです。さらに児童虐待について、早期発見により大事に至らなくするため、お母さんが出産する前から関わっていくなど、子どもの健やかな成長を願って様々な取り組みを進めてまいりますので、御意見などございましたらお聞かせいただきたいと思います。

藤川委員

行政や当事者が一生懸命なのは分かりますが、それを取り巻く社会の全般で知識が少ないということが問題だと思います。例えば自分の子どもが通っている幼稚園や児童館で、発達障害の子どもと接したときに、どのように接したらトラブルにならないかを先生だけでなく全ての保護者が教えてあげることが必要だと思います。発達障害の子どもの成長過程についてDVDなどで見せるとか、トラブルを起こしたときの対処法を特別支援の専門の方の力を借りながら市民の方々に広めてもらえれば、それが最終的には犯罪が少ない社会になるのかなと思います。軽犯罪を繰り返し起こす方は発達障害や知的障害を持っている方が多いと聞きます。障害の程度が軽ければ軽いほど「変わった人」としか思われないため、必要な支援を受けられず辛い思いをする子が多いという話も聞きます。8パーセントの確率で子どもが何らかの障害を先天的に持って生まれてくるというデータがありますので、当事者だけではなく、全ての市民に障害についての理解を広める取り組みを増やしていただきたいと思います。

菊地市長

学校の現場と社会がそれぞれ取り組まなければ難しいと思います。

百井教育長

健診はそういった障害を発見するきっかけになりますし、保護者や地域の人に情報を発信するという事は大事だと思います。しかし、一般の人に情報を発信していくことはなかなか難しいと思いますので、こういったこともあるのだということを知らせるきっかけを探していきたいと思います。また、相談できる機関を充実させていくことや、教員の研修も大事だと思います。

小林委員

家庭教育と地域全体の教育ということで生涯学習の方で担っていかなければいけない課題だと思います。学校に全て任せている現状ですから、もっとやるべき家庭教育や地域教育の手立てを行政側で講じていかなければならないと思います。

百井教育長

放課後のびやか教室では一般の方に子どもの面倒をみてもらっているのですが、社会教育主事のレポートによると、この取り組みが地域の教育力の向上に繋がっているという評価をいただきました。子どもから高齢者まで関わるような事業に、なるべく多くの方に参加してもらうことが大きな成果に繋がると思います。生涯学習や社会学習等がこのように評価され、充実していますので、教育委員会としてはこれからもより充実させていきたいと思います。

佐藤教育長職務代理者

私たちが障害というのはどういう状態なのかという情報を持っていれば、お互いに助け合うことができると思いますし、情報を子どもと親に提供して、見守ってもらう機会を作るのはとても大切だと思います。しつけの問題や社会規範の問題、協調性の問題や倫理観がしっかりしていれば、どのような人でも住みやすい環境になると思います。最低限ここまでは守ろうという地域社会の意識を市民の方に持ってもらうための働きかけを行政でしていかなければならないと思います。学校外教育とはどういうことなのか精査していく必要があるように思います。

菊地市長

社会の最低のルールを基にみんなで子どもを見守るという視点が必要なのだと感じました。それはコミュニティー作りに繋がるのだと思います。今は昔と比べて交流が少なくなってきていますので、できるところから取り組んでいきたいと思っています。

それでは次に移りたいと思います。子どもたちの夢・あこがれを育む具体的な取り組みについて御説明をお願いいたします。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

5 ページを御覧ください。

子どもたちの夢・あこがれを育む具体的な方策について、説明させていただきます。

子どもたちに、将来の夢やあこがれをいだかせ、市民の皆様が、自ら生涯にわたって学び続ける環境づくりを推進するため、平成 21 年度から「夢・あこがれプロジェクト」と位置づけて、取り組んでまいりました事業でございます。

平成 29 年度での主な事業を列記させていただきましたが、「夢・あこがれプロジェクト」の名称がつかないものでも、中学生のドーバー派遣事業、市民会館での自主事業におけるコンサートや文化鑑賞など、よい刺激を与えてくれる事業があると思います。子どもたちをはじめ、市民の皆様からの評価も高いことから、事業の中味を充実させたいと考えておりますので、委員の皆様から御意見をいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

菊地市長

御意見は先程いただきましたが、その他にこの事業をもっと伸ばすために、何か良い案があれば御意見頂戴したいと思います。

佐藤教育長職務代理者

市民の方に、この事業がとても素晴らしいということがあまり広まっていないように感じます。他市町村の教育委員の方から、岩沼市は素晴らしい事業をしているとよく言われますが、市民の方からはそのような声を聞きません。やっていることが当たり前

なっているのだと思います。岩沼市で取り組んでいる事業をもっと積極的に発信していく必要があるのではないかと感じています。

百井教育長

私も岩沼市に来たとき、取り組んでいる事業を見て驚きました。ほとんどの市ではこういった事業を行っていませんし、本当に素晴らしい事業だと思います。そのことを市民の方に浸透していないということは、私たちの宣伝が足りないのだと思います。

菊地市長

今のお話を聞いて、良い事業を行っていると胸を張って発信していかなければならないと感じました。

その他に入りたいと思います。何かありましたら御意見を頂戴したいと思います。

高橋教育次長兼総務課長事務取扱

平成 29 年度総合教育会議につきましてはこれで最後になります。緊急事項が発生した場合には随時開催したいと思いますので、よろしく願いいたします。

百井教育長

今日の話の中で経済格差が教育格差と繋がるという話がありましたが、英語教育がまさしくそれだと思います。十数年前に公立の中学校から私立の中学校に転校した子どもが授業に苦勞したということを知ったことがあります。このようなことが現実にありますので、小学校 3 年生から英語活動が始まりますが、低学年から英語に親しみを持てるような活動をしていきたいと思います。教職員の働き方についても教職員の時間の確保等、中身の充実も積極的に図っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

菊地市長

他に何かありましたら再度意見を頂戴したいと思います。特にいじめについてはいち早く情報をキャッチしていくということですので、よろしく願いしたいと思います。

平成 29 年度第 2 回総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

(午後 3 時 45 分閉会)

この議事録の作成者は、次のとおりである。

教育総務課総務係長 山下 真理子

教育総務課主事 田崎 恭子

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

平成 30 年 1 月 25 日

議事録署名人 佐藤 雅晴